



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東 名

上場会社名 名糖産業株式会社  
コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長  
四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

(氏名) 小島 寛志  
(氏名) 山崎 潔

TEL 052-521-7111

配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	14,836	5.5	△397	—	93	△54.2	138	—
26年3月期第3四半期	14,057	△1.6	△454	—	203	21.0	△155	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 2,654百万円 (25.3%) 26年3月期第3四半期 2,118百万円 (428.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	8.25	8.24
26年3月期第3四半期	△9.26	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	50,091	36,452	72.5
26年3月期	46,687	34,254	72.8

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 36,314百万円 26年3月期 34,000百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	20.00	20.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	3.6	△500	—	△50	—	50	—	2.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	21,265,000 株	26年3月期	21,265,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	4,469,112 株	26年3月期	4,465,167 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	16,797,698 株	26年3月期3Q	16,800,920 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安の進行に伴い輸出関連企業を中心に収益が拡大して、雇用や所得環境の改善が見られたものの、消費者マインドは盛り上がりを欠き、景気回復への足取りの弱さが懸念される状況となりました。今後の国内景気への期待感を含みながらも、消費税率の引き上げや円安に伴う物価の上昇などにより、消費者の生活防衛意識が根強く残りました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、原油価格の下落によりエネルギーコストの低下が期待されるものの、円安や相場の高騰による原材料コストの上昇が収益を圧迫して、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上のため品質管理体制の強化に引き続き注力するとともに、お客様のニーズを的確に捉えた高付加価値商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて5.5%増の14,836百万円となりました。営業損益につきましては、事業活動の効率化やコストの削減など収益力の向上に努めましたが、原材料価格の高騰などが収益を圧迫して397百万円の損失となりました。前年同期は454百万円の営業損失でありました。また、経常利益は営業外収益の減少などにより、前年同期に比べ54.2%減の93百万円となりました。四半期純利益につきましては、特別利益に新株予約権戻入益112百万円、特別損失に製品回収廃棄損23百万円を計上しました結果、138百万円となりました。前年同期は155百万円の純損失でありました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 食品事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門はキャラクターを使用したコラボレーションキャンペーンなどの販売施策を展開したところ、売上が好調に推移して増収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」や新商品の「宇治抹茶チョコレート」などのファミリータイプの商品ならびにエアインチョコレートが売上を伸ばし、増収となりました。キャンディ類は前年同期並みの売上となりました。

粉末飲料部門は、新商品の「香り高いミルクココア」が順調に売上を伸ばしましたが、「レモンティー」や「しょうが紅茶」などが販売競争激化の影響を受けて落ち込み、若干の減収となりました。

主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、自社商品は減少しましたが、受託商品が伸長して増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、市場シェアの拡大を目指して積極的な商品開発や営業施策を展開しました結果、主力のパウムクーヘン類やゼリー類がともに好調に推移して、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ6.4%増の13,146百万円となりましたが、営業損益につきましては、原材料価格の高騰や販売促進費の増加などにより、10百万円の損失となりました。前年同期は32百万円の営業損失でありました。

#### 化成品事業

酵素部門につきましては、グローバルな営業活動を展開して売上規模の拡大を目指しましたが、海外企業との競争が厳しく、チーズ用凝乳酵素「レンネット」、脂肪分解酵素「リパーゼ」がともに前年同期を下回り、減収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」や癌転移検出用医療機器で使用される「デキストランマグネタイト」が売上を伸ばして、増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期より微増の1,470百万円となりました。営業損益につきましては、販売費の増加や減価償却費の負担などにより13百万円の損失となりました。前年同期は48百万円の営業損失でありました。

#### 不動産事業

不動産事業につきましては、賃貸物件のうち一部の契約が終了したことなどにより、売上高は前年同期に比べ3.6%減の219百万円となり、営業利益は前年同期に比べ6.8%減の83百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ358百万円減少し、9,250百万円となりました。これは、現金及び預金が1,078百万円減少したことや、受取手形及び売掛金が815百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3,762百万円増加し、40,840百万円となりました。これは、保有する株式の株価の上昇などにより投資有価証券が4,100百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ3,404百万円増加し、50,091百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ144百万円増加し、5,451百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が542百万円増加したことや、1年内返済予定の長期借入金が360百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,061百万円増加し、8,186百万円となりました。これは、繰延税金負債が1,289百万円増加したことや、長期借入金が326百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,206百万円増加し、13,638百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,197百万円増加し、36,452百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が2,526百万円増加したことなどによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

個人消費に力強さが欠けるなか、原材料価格の高騰や大幅に進んだ円安など事業を取り巻く環境は先行き不透明感を増しておりますが、当社グループにおきましては、今後も売上規模の拡大や事業活動の効率化に努め、収益力の向上に取り組んでまいります。現時点では通期の連結業績予想につきまして、平成26年5月14日に公表いたしました数値を修正しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

なお、この変更に伴う期首の利益剰余金ならびに損益に与える影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,253	1,175
受取手形及び売掛金	4,023	4,839
有価証券	1,199	600
商品及び製品	739	1,009
仕掛品	355	370
原材料及び貯蔵品	802	1,004
その他	254	292
貸倒引当金	△19	△40
流動資産合計	9,609	9,250
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,762	4,566
その他（純額）	6,763	6,641
有形固定資産合計	11,526	11,207
無形固定資産		
	72	63
投資その他の資産		
投資有価証券	25,361	29,462
その他	191	185
貸倒引当金	△73	△78
投資その他の資産合計	25,479	29,569
固定資産合計	37,077	40,840
資産合計	46,687	50,091

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,078	2,620
1年内返済予定の長期借入金	914	554
未払法人税等	5	1
返品調整引当金	8	7
その他	2,299	2,266
流動負債合計	5,306	5,451
固定負債		
長期借入金	1,007	681
繰延税金負債	3,542	4,832
役員退職慰労引当金	14	16
退職給付に係る負債	2,267	2,319
その他	292	336
固定負債合計	7,125	8,186
負債合計	12,432	13,638
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	33,064	32,867
自己株式	△8,546	△8,550
株主資本合計	25,907	25,705
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,077	10,604
退職給付に係る調整累計額	14	3
その他の包括利益累計額合計	8,092	10,608
新株予約権	254	138
純資産合計	34,254	36,452
負債純資産合計	46,687	50,091

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	14,057	14,836
売上原価	10,038	10,600
売上総利益	4,018	4,236
販売費及び一般管理費		
販売促進費	1,668	1,781
給料手当及び賞与	1,084	1,075
退職給付費用	139	61
役員退職慰労引当金繰入額	4	1
貸倒引当金繰入額	-	27
減価償却費	46	48
その他	1,528	1,637
販売費及び一般管理費合計	4,473	4,633
営業損失(△)	△454	△397
営業外収益		
受取利息	17	12
受取配当金	398	397
持分法による投資利益	105	43
その他	182	78
営業外収益合計	704	533
営業外費用		
支払利息	21	16
固定資産除売却損	22	22
その他	1	3
営業外費用合計	45	42
経常利益	203	93
特別利益		
新株予約権戻入益	-	112
投資有価証券売却益	63	-
特別利益合計	63	112
特別損失		
製品回収廃棄損	17	23
投資有価証券評価損	43	-
特別損失合計	61	23
税金等調整前四半期純利益	205	182
法人税、住民税及び事業税	7	7
法人税等調整額	353	36
法人税等合計	361	43
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主 損益調整前四半期純損失(△)	△155	138
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△155	138

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主 損益調整前四半期純損失(△)	△155	138
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2,274	2,526
退職給付に係る調整額	-	△11
その他の包括利益合計	2,274	2,515
四半期包括利益	2,118	2,654
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,118	2,654

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,360	1,468	227	14,057	—	14,057
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,360	1,468	227	14,057	—	14,057
セグメント利益又は損失(△)	△32	△48	89	9	△464	△454

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,146	1,470	219	14,836	—	14,836
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,146	1,470	219	14,836	—	14,836
セグメント利益又は損失(△)	△10	△13	83	59	△456	△397

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。